

知らなかった…いつ戻ってくる?急ぎの用事なのにインターホンは不安

■自己紹介■ 吉川(よしかわ)ひとみ

1982年生まれ、40歳

障害種別:精神障害(双極性障害Ⅱ型)

障害者歴:約25年(障害のない世界とある世界)

所属:アクセス関西ネットワーク

仕事:障害者への就労支援(様々な障害者が通う)

最寄り駅:時間帯無人駅・単線

■駅無人化に関する困りごと■

①安全性、②利便性の低下と、 それに伴う鉄道離れ、地域社会への影響

## 駅員の目がないと…

	安全性の不安
1	いるだけで安心。頼れるはずの人が「いない」と気づいたときの衝撃、混乱。焦燥感や不安を抱えて 利用するか、駅の使用を諦めてしまう(目的が達成できない)。
2	不安(予期不安)が起こる。機械トラブル、体調不良、ケガ、防犯上の危険(犯罪、テロ、暴力行為、 ハラスメント)などが起こったらどうしよう?
3	実際起こった時の対応が遅れ、事態悪化、当事者へも悪影響を及ぼす。
	利便性の不安
1	トラブル対応が遅れる。特に急を要すること(忘れ物や券売機トラブル等)で予定が狂い、待つこと や慣れないインターホンを使うことが強いストレス(不安)になる。
2	インターホン(モニター付き)や券売機。定期やツアーなど指定駅のみで購入できる切符
3	一人での自立した外出の機会を奪い、家族や移動支援などの調整が必要となる

## 周辺の心配

## 



精神障害者は、「無人駅になったら、何が困るか、自分で具体的に分からない、想像できないこと自体が不安」「なんとなく不安」というように、困りごとを言語化することが難しい場合があります。

不安は身体・精神症状を伴うことが多いです。